

今日のトピック 金価格の動向

安全資産として見直し機運が強まる

ポイント1 年初から金価格は上昇

安全資産として金が選好される

- 金価格は11、12年のピークの後、下落基調で推移してきましたが、今年に入り上昇に転じています。6月22日の価格は、年初来で19.3%の上昇となっています。その要因は、米国利上げ期待の後退を受けて、ドル安が進行したこと、年初に発生した金融市場の不安定さから、金の安全資産としての見直し機運が高まったためと思われます。
- また、直近ではBrexit（英国のEUからの離脱）に対する懸念が高まったことも、金価格上昇の一因となっています。

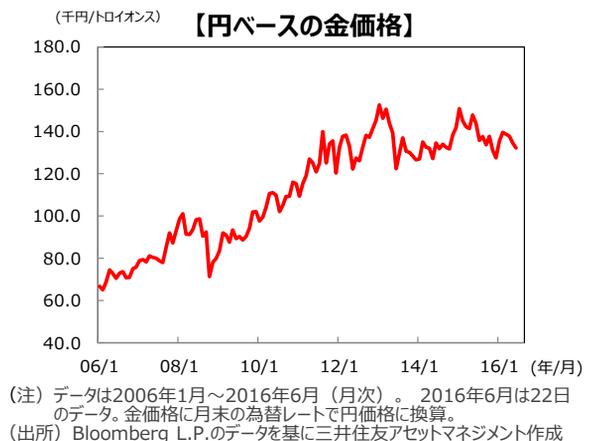
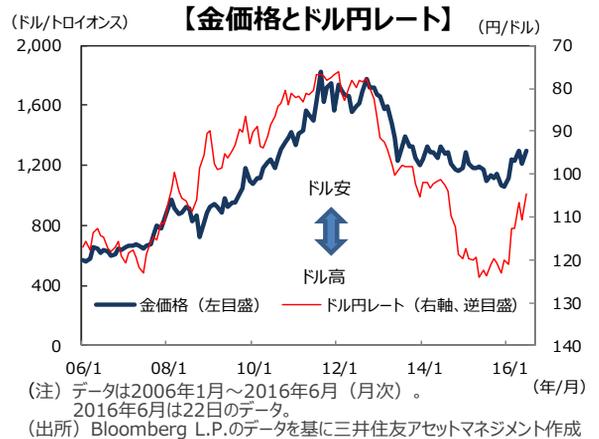
ポイント2 円ベースの金価格は横ばい

ドルベースの上昇を円高が相殺

- ただし、円ベースの金価格は右のグラフで見ると、今年に入ってから、ボックス圏での推移となっており、年初からの上昇率は4%弱にとどまっています。ドルベースでの金価格の上昇を、円高の進行が相殺しているためです。これは、外国為替市場で、円が金と同様に安全資産として選好されているためです。

今後の展開 金価格は市場心理のバロメーター

- 英国のEU離脱が残留かを決める国民投票が23日に行われます。金価格は、離脱となれば今後の金融市場の混乱などを見越して上昇、残留となればリスク回避が修正され一時的に調整、といった可能性があります。ただ、残留が選択された場合も、離脱派の主張に一定の配慮が必要であり、英国やEUに対する懸念は残ると思われます。金融市場への不透明感を完全に解消することは難しく、引き続き安全資産としての金が注目されると思われます。
- 英国の国民投票後の金相場では、米国の長期金利や米ドルの動き、すなわち米国の金融政策や地政学的リスクなど、今後の金融市場に影響を及ぼす事象に焦点があたると考えられます。不透明感が強まれば、金価格が堅調に推移する可能性が高まると考えられます。金価格の動向は、金融市場に対する投資家の心理状態を推し量る参考になります。いわば、「市場心理のバロメーター」と考えられ、金価格の動向が注目されます。



ここもチェック! 2016年6月17日 「Brexit」残留か離脱か(欧州)
2016年6月16日 米国の金融政策(2016年6月) 政策金利は据え置き: 低金利は長期化へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。